

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。
- 3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
  - (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。
    - ア ICT機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。
    - イ 教員相互の授業見学等を日常的に実施し情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。  
また地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。  
※授業アンケートにおける授業満足度について80%以上を維持する。(H29 81% /H30 80% /R01 81%)
  - (2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。
    - ア 3年間を見通し、1年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。
    - イ 補習・講習について外部教育産業とも連携しながら、生徒一人ひとりの進路支援体制・学習支援体制のさらなる充実を図る。  
※生徒の進路達成満足度について90%以上を維持する。(H29 - /H30 97% /R01 98%)
- 2 安全安心な学びの環境を整えるとともに、規範意識や人権意識を育み、生徒一人ひとりに社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけさせる。
  - (1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。
    - ア 学年、生徒指導部の連携を強化し、学校全体が同じ基準でぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀の指導に全教職員が継続して取り組む。
    - イ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、生徒の自主性を重んじながら社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。  
また、部活動を通して、何事にも一生懸命取り組み、継続して活動できる力を育成する。  
※保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率を令和4年度には70%以上とする。(H29 42% /H30 68% /R01 51%)  
※各行事に対するアンケート結果による満足度について85%以上を維持する。(H29 87% /H30 87% /R01 90%)
  - (2) 生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制について、保護者及び専門関係機関と連携しながら充実させる。  
※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を次年度以降75%以上を維持する。(H29 63% /H30 63% /R01 73%)
  - (3) 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、人権意識、実践力を高める教育活動をさらに充実させる。  
※生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率を次年度以降80%以上を維持する。(H29 69% /H30 77% /R01 79%)
  - (4) 自然災害等を含め緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応ができる連絡体制の徹底を図る。  
※生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率を令和4年度には80%以上とする。(H29 - /H30 66% /R01 75%)
- 3 英語をはじめとする外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。
  - (1) 英語や他の外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。
    - ア 少人数展開、ICT機器等の活用、アクティブラーニングの実施等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら4技能をバランスよく伸ばす。
    - イ 姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプ、これらを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的語学力をさらに向上させる。  
※外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について次年度以降80%以上を維持する。(H29 - /H30 - /R01 79%)
  - (2) 国際教育、ESD（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組み、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。  
※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率について85%以上を維持する。(H29 87% /H30 87% /R01 87%)
- 4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。
  - (1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域に根ざした学校づくりを推進する。
  - (2) ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。  
※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を令和4年度には75%以上とする。(H29 60% /H30 63% /R01 71%)
- 5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。
  - (1) 業務の精選と簡素化を図ると同時に、教職員の意識を高め、時間外業務の減少をめざす。
  - (2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。  
※時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、令和4年度には2割減（R01年度比）とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年度実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者の回収率が8%上昇した。</p> <p>○「学校に行くのが楽しい」の項目において、生徒75%(昨年77%)、保護者67%(昨年66%)であった。コロナ禍の中、遠足、文化祭、修学旅行などの学校行事が中止や延期になる中で、楽しいと感じる行事が限られてしまった。大きな行事については、体育祭の一つに絞って何とか、生徒中心となってやりきることができた。そういった状況下で前年度とほぼ同じ数字残すことができた。</p> <p>○学習面において、ICT活用度89%(昨年88%)とほとんどの教員がICT機器を継続的に有効に活用している。授業アンケートの結果においても授業満足度80%を維持することができた。今後、ICT環境をさらに充実させて、活用の幅を拡げていく予定である。</p>	<p>【第1回学校運営協議会（令和2年7月21日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言で2か月間、教育活動が遅れてのスタートとなったが、入試日程はそのままで行われるのかなど3年生は不安を抱えるので、入試日程等の変更に関する情報があれば、円滑に生徒に伝えてほしい。</li> <li>・オンライン授業の環境整備が進んでいるが、ネット環境がない生徒にも公平に授業が受けられるようにしてほしい。</li> <li>・コロナ禍の中、感染症対策として換気、消毒を教員が分担して行っていると聞き、安心した。負担を強いることになるが、収束まで継続されたい。</li> <li>・コロナの影響で家庭の経済事情が悪化した生徒がいれば、メンタル面も含めてできる限りのケアをしてほしい。</li> <li>・「国際教養科」が「国際文化科」に改編すると言われても、何がどう変わるかが、ピンとこないで、そういった情報を各中学校に情報を提供するなどの広報活動をしてほしい。</li> </ul>

府立長野高等学校

<p>○「生徒指導方針に共感できる」生徒 <b>49%</b>(昨年 <b>41%</b>)、保護者 <b>51%</b>(昨年 <b>51%</b>)となった。厳しい指導だけでなく、生徒の意見をしっかり聞き、生徒に寄り添い、見守るといった指導がポイントの上昇につながったと考えられる。今後もそういった指導が継承されるよう組織的に取り組む。</p> <p>○「進路についての適切な情報提供やアドバイスをを行っている」が、<b>82%</b>(昨年 <b>77%</b>)に上昇した。コロナ禍による進路に対する不安を抱く生徒がいたが、担任をはじめとして、学年団、進路指導部が丁寧でかつ的確な指導を行った。一人ひとりの生徒を多面的に指導、支援する体制を強化したい。</p> <p>○「部活動は活発に活動している」が <b>74%</b>(昨年 <b>58%</b>)と大幅に伸びた。緊急事態宣言等の影響により、公式試合が中止になったり、十分な練習時間がとれない環境にあるなかで、部員は、自分たちで工夫し、効率のいい練習メニューを考えるなど、自ら考え行動するようになった。</p> <p>○「国際教育が充実している」<b>82%</b>(昨年 <b>87%</b>)と下降した。コロナの影響で、海外修学旅行をはじめ、海外語学研修、国際交流行事のほとんどが余儀なく中止となったことに起因する。韓国からの短期留学生との交流やZoomを活用して、韓国の姉妹校と交流を行うなど交流の形態を変更したり、規模縮小をしたりするなどして可能な限りの対応をした。次年度は、新たな交流スタイルを模索しながら状況が整えば、従来の頻度、規模で国際教育を再開させたい。</p> <p>○「いじめなど困ったことに真剣に対応してくれる」生徒 <b>72%</b>(昨年 <b>73%</b>)はほぼ横ばい、「健康相談・カウンセリングなど悩みや相談に応じる体制が整っている」保護者 <b>68%</b>(昨年 <b>46%</b>)は大幅に上昇した。友達関係、進路に関する悩みなど多様な悩みを抱える生徒が年々増加傾向にある。教員のカウンセリングマインドを一層高めるような研修などを設ける。</p> <p>○「ホームページや携帯連絡網サービスで学校の様子がよくわかる」保護者 <b>62%</b>(昨年 <b>71%</b>) コロナに関する情報については、その都度、携帯連絡網サービスを使って情報発信したが、ホームページによる学校情報の発信については更新頻度が低かった。広報委員会(仮称)を立ち上げ、タイムリーな情報発信ができるよう体制を整える。</p> <p>○「学校行事が生徒にとって魅力あるものになるよう、工夫・改善を行っている」教員 <b>89%</b>(昨年 <b>76%</b>)と上昇した。特に今年度はコロナ禍にあり、全ての学校行事に規制がかかり、どの規模ならできるか、どんな対策をとればできるか等、実施するにはどうすればいいかを丁寧に議論した。ポストコロナのステージに進んでも、常に、見直し、工夫・改善をする体制を強化したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクールに認定されているが、例えばSDGsのどの項目に焦点を当ててどんな活動をしているかなど、もっと情報発信してほしい。</li> <li>・昨年提案した生徒に配慮した制服の多様化が図られており、生徒に寄り添った指導がされていると感じた。今後もそういった視点で指導を継続することを望む。</li> </ul> <p>【第2回学校運営協議会(令和2年11月20日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2外国語(独、仏、韓、中)の双方向の授業形態が機能しており、生徒は生き生きと授業を受けていた。生徒が主体的に学習する取組みがととてもよかった。</li> <li>・もう少し発音を意識した指導をしてもいいのではないかな。</li> <li>・世界の情勢を見るとスペイン語を話している人口はかなり多い。第2外国語の中にスペイン語の導入についても検討してはどうか。</li> <li>・観点別学習評価導入に向けて、河内長野市の中学校では、共通の基準を作るための評価検討委員会を設置している。高校においても令和4年度から実施となるので、先行している中学校の基準を参考にするなどして進めていってほしい。</li> <li>・教室によっては密になりかけているところもあったので、教員、生徒に感染防止対策を常に講じる意識をもたせてほしい。</li> <li>・自転車で、並走したり、複数名の生徒が店の敷地内の通路に並べて駐輪するなど、交通マナーが悪い生徒が散見される。注意できる生徒がいればなあと思ひ、残念な気持ちになった。集会時等で交通マナーの指導を行ってほしい。</li> <li>・進学した大学によっては入社するのが難しい企業もあるが、高卒なら就職できる場合があるなど、高卒に対する求人の良いものがたくさんある。そういった情報も生徒に伝えてはどうか。</li> <li>・大学に勤務しているが、奨学金無償化の制度を利用して入学後、成績等で規定の範囲に入らず、苦しい状況に追い込まれる学生もいる。そういった事例を示すなどして、大学に入学した後を見据えた進路指導も生徒にしてほしい。</li> </ul> <p>【第3回学校運営協議会(令和3年3月17日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大が「大きな不安」や「抑うつ」など生徒の精神面に影響を及ぼしている生徒が出てくる可能性があるため、養護教諭、教育相談委員会、SC等と連携を強化して対応してほしい。</li> <li>・長野高校の特色の一つである英語及び国際関連の諸行事が延期や中止になったが、どのような条件が整えば実施することができるかを前もって計画し、対面での実施がかなわない場合は、オンラインで行うなどしてほしい。</li> <li>・高校3年の進路について、コロナの影響により家庭の経済事情が悪化するなどして、生徒の進路希望が例年と異なる傾向にある高校が増えたと聞いている。奨学金制度や進学を支援する制度の説明なども校内の進路説明会でいれてほしい。</li> <li>・コロナの状況のもと、通常の状態とは異なったが、教員の時間外業務が対前年27%減となっている。引き続き、業務の効率化を図りたい。</li> <li>・キャリアパスポートについて、生徒が日々の振り返りや自分の歩んだ足跡を記録することで、自分の成長の度合いや目標の達成状況を知ることができる。さらなる有効活用をしてほしい。</li> <li>・長野北高校が閉校となり、長野高校に機能統合された。どんな機能を引き継ぐのか、また、引き継いだ色んな物品やメモリアル(例えば、石碑など)等も生徒に周知してほしい。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力を身につけ、 自らの力で進路実現できる生徒を育成	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業見学週間」を設け、教科を越えて情報交換を密に行ないながら、「授業のあり方研究会」を中心に授業の質を向上させることをめざす。</li> <li>・中学校との相互授業見学システムを継続し、中高連携を促進すると同時に高校における授業の在り方を考える。</li> </ul> <p>(2) 学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。</p> <p>ア 勉強会・講習・補習を組織的に計画・実施する。</p> <p>イ 長期休業中の講習について、外部教育産業とも連携し、進路実現に向けた内容を充実させる。</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの満足度を <b>80%</b>以上を維持する。 <b>(R01 80%)</b></li> <li>・生徒のICT活用授業の肯定率 <b>90%</b>をめざす。 <b>(R01 88%)</b></li> <li>・積極的に授業見学・情報交換に参加する教員率について <b>80%</b>以上を維持する。 <b>(R01 83%)</b></li> </ul> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における「勉強会・講習・補習等」についての肯定率について <b>75%</b>以上を維持する。 <b>(R01 76%)</b></p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート満足度 <b>80%</b>であった。(○)</li> <li>・ICT活用授業の肯定率は <b>89%</b>であり、休校等によりICTの活用が劇的に急増した。(○)</li> <li>・授業見学・情報交換に参加する教員率 <b>82%</b>(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「勉強会・講習・補習等」についての肯定率は <b>75%</b>を維持(○)</li> </ul>

府立長野高等学校

<p>2 安全安心な学びの環境整備、規範意識・ 人権意識・社会的基礎力の醸成</p>	<p>(1)規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(4) 緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図る。</p>	<p>(1) ア学年間・生指部の連携を強化し、遅刻指導、身だしなみの指導等、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。 イ体育祭等各行事のマニュアル化およびさらなる活性化を図る。 ・生徒の部活動継続率上げる工夫を凝らす。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制について、SCに加えSSW等外部関係機関と連携しながら、充実させる。</p> <p>(4) 緊急時の教職員の連絡体制を見直すとともに、生徒への防災教育を充実させる。</p>	<p>(1) ア生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率を45%以上とする。 (R01 41%) イ・行事の満足度を85%以上とする。 (R01 体育祭 94% 文化祭 86%) ・部活動継続率77%以上とする。(R01 76.5)</p> <p>(2)生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を75%以上とする。(R01 73%)</p> <p>(4)生徒向け自己診断における学校安全に関する項目の肯定率を77%以上とする。(R01 75%)</p>	<p>(1) ・生徒指導・支援体制の肯定率は昨年より上昇し49%となった。(○) ・体育祭の満足度は94%、文化祭はコロナの影響で実施できず。(○) ・部活動継続率は71% コロナ禍によりモチベーションの継続が困難であった。(一)</p> <p>(2) ・教育相談体制・支援体制の肯定率は72%であったが、教育相談利用者のみ肯定率は80%であったため(○)</p> <p>(4) ・学校安全に関する肯定率は74%と微減(△)</p>
<p>3 外国語教育、国際教育のさらなる充実</p>	<p>(1)外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2)国際教育、ESDの充実・発展に取り組む。</p>	<p>(1) ア・少人数授業の利点を活かし、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、4技能をバランスよく伸ばす。 ・各種英語学力調査を継続活用し4技能向上の指標とする。 イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプ等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。コロナの影響で実施不可の場合はビデオ会議を活用して交流を図る。</p> <p>(2)校内における国際教育、ESDに関する行事(ユネスコスクールの取組みを含む)を企画・運営する体制を整え、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。</p>	<p>(1) ア・英語に関する授業アンケート満足度80%以上を維持する。 ・英語学力調査で、国際教養科において全国平均を上回ることをめざす。(R01はスピーキングのみ○) イ海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ等各行事の参加者の満足度を90%以上を維持する。(R01 語学研修100%/キャンプ99%)</p> <p>(2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する肯定率85%以上を維持する。 R01 87%)</p>	<p>(1) ・英語授業満足度81%であったが、第2外国語(独仏韓中)授業満足度は89%であった。(◎) ・2学年の国際教養科は、総合点で全国高2平均を上回った(スピーキング、ライティングの順で昨年より上昇)(◎) ・コロナの影響で語学研修、キャンプは実施できなかったため、韓国の姉妹校とビデオ会議による交流3回とメールによる交流を行った。満足度90%(○)</p> <p>(2) ・コロナの影響で活動が制限され、国際教育に対する肯定率82%となった。(一)</p>
<p>4 地域・保護者をつなぐ魅力ある学校づくりと情報発信</p>	<p>(1)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>(2)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>(1) 学校、学年また各教科、クラブ単位等様々な形で、市役所、保育所、小中学校・福祉施設等と連携する取組みを積極的に企画実施する。</p> <p>(2) ・学校ホームページを魅力あるものに刷新する。 ・また、保護者携帯へのメール送信に関して、内容を充実させるとともに、タイムリーな発信を心掛ける。 ・広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。</p>	<p>(1) コロナの影響により、実施が危ぶまれるものも多々あるが、参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について80%以上を維持する。(R01 92%)</p> <p>(2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を73%以上とする。(R01 71%)</p>	<p>(1) ・1年生で実施できた地域研究での地域貢献の満足度は92%であった。(◎)</p> <p>(2) ・広報に関する満足度は62%と下がった。広報体制を見直す。(△)</p>
<p>5 校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。</p> <p>(2)教員を育成するシステムの構築を図る。</p>	<p>(1)教職員の負担軽減を考慮しながら、分掌の業務を見直す。また、ICTを活用し、校務の効率化を図る。</p> <p>(2)首席・指導教諭が中心となって、教員の実践的「アクティブラーニング型教員全体研修会」を定期的実施し、校内の意思形成を図る。</p>	<p>(1)時間外業務の年間時数(一人あたり平均)について、前年度比減をめざす。(R01は294時間47分)</p> <p>(2)教員研修に関するアンケート調査において、肯定回答率について70%をめざす。(R01 49%)</p>	<p>(1)217時間17分 昨年より27%減(◎)</p> <p>(2)コロナの影響で、教員研修については、人権研修に絞った。肯定回答率80%(○)</p>